

## 名前のお大切さ

都城市立沖水小学校二年

田口

絢音

さん

わたしは、子ども新聞で「コロナ」という名前がいじめられている外国の男の子の記しを読みました。わたしは、名前をりゆうじにいじめるのは、とてもわるいことだと思います。なぜなら、名前はみんなお父さんやお母さんがつけてくれたものだからです。

わたしは、お母さんにじぶんの名前をどうやってつけたのか聞いてみました。「絢音」の「絢」は「きらきらしている」といういみがあると教えてくれました。きつと、「きらきらした子になってほしい」といういみがこめられているんだと思います。「音」は、お父さんとお母さんが二人とも音がくがすきだから、つけたのだと教えてくれました。

わたしは、名前のいみをしる前は、「もっとかわいい名前がよかったな」と思ったこともありましたが、でも、名前のいみをしてからは、「すてきな名前だな。名前のとおりになれるようにがんばろう。」と嬉しいようになりました。わたしも、そのすてきだと思っている名前をばかにされたりがなしいです。だから、「コロナくんもかかったと思います。」

「コロナ」には「王かん」といういみがあるそうです。だから、「コロナ」という名前はおかしくないのです。きつと「コロナくんのお母さんも、王かんのお母さんと同じく嬉しいをこめてつけたんだと思います。名前には、いろいろな思いがこもっているから、それをりゆうじにいじめるのはよくないと思います。」

わたしは、もし名前をりゆうじにいじめられている子がいたら、

「どんないみがあるの。」

と聞いてみたいです。そつと、

「すてきな名前だね。」

と書いてあげたいです。

わたしは、これからもし自分の名前や友だちの名前を大切にしていきたいです。そして、はやくへおへコロナウイルスがなくなるといいな、と思いました。





# いじめを知った日から決めた事

高鍋町立高鍋西小学校三年 半渡 沙空 さん

わたしは、二年生の時の道とくのじゅぎょうで、友だちとけんかをしてくつをかさたてのころにかくしていたという話で、いじめというものを知りました。その話を聞いた時に、自分の体けんしたイヤな思い出を思い出しました。

一つ目は、二年生の時にあだ名を言われて、イヤな気持ちになった事です。その時に、わたしが感じた事は、どうして自分の名前があるのにあだ名でよんでくるんだろう…というびっくりな気持ちと同時に、あだ名でよんでほしくないのになぁ…と、とてもイヤな気持ちになった事でした。二つ目は、おにっこをしていたと中で、わたしが水のみに行くと、友だちが体育そこのうらにかくれています。そこにわたしが行くと、わらいながらにげて行ってしまった事です。その時感じたのは、何でにげたんだろう…。わたし何かしたかな？というイヤだなというより、かなしいという気持ちでした。

自分がこんな体けんをしていなかったら、友だちにイヤな思いをさせていたかもしれません。そして、自分も楽しくない気持ちになっていたかもしれません。だからわたしは、せつ体にいじめをしたくありません。

いじめとは、友だちの事をわたしのようにイヤだなと思わせたり、かなしい気持ちにさせる事だと思いました。他にもきくと、わたしの知らないいじめはあると思います。

たとえば、わたしはスケボーが大好きです。でもそれを、

「女の子なのにスケボーするの？」

と言う人がいるかもしれません。そんな人がいたら、わたしは、

「人はみんなちがうから、女の子でもスケボーが好きな子もいるんだよ。だからそんな事言ったらきずつくからダメだよ。」

と言える人になります。

また、自分の友だちがいじめられていたら、まず、友だちの話を聞いて、そのいじめていた子に、

「あやまってあげて。」

と言える人になります。